

古河文化見聞録

旅する近美 古河へ ～茨城県近代美術館移動美術館開催～

今秋の古河歴史博物館の特別展は、茨城県近代美術館「移動美術館」です。県近代美術館所蔵作品が日立を皮切りに、筑西、古河、そして土浦の県内4カ所をめぐる。

茨城県近代美術館は、空調設備工事のため平成30年1月中旬まで休館となります。本展覧会は、その期間の所蔵作品の有効活用を図り、茨城県近代美術館から遠く離れた地域の県民にも、同館所蔵の優れたコレクションを鑑賞する機会を設けようと企画されたものです。

茨城県近代美術館の歴史とコレクション

水戸、千波湖のほりにある茨城県近代美術館は、昭和63(1988)年に開館し、来年には開館30周年を迎えます。前身の茨城県立美術館創設から数えると、今年70年という節目の年。長い年月を歩んできた歴史ある美術館であるといえましょう。

茨城県近代美術館は、終戦後の昭和22(1947)年、大洗の常陽明治記念館内に茨城県立美術館として開館したのがはじまりでした。

もっとも、美術館の要となる所蔵作品は、開館約1カ月前まで1点もない状態、いわば文字通りゼロからのスタートだったといいます。美術館にとって所蔵品は館の性格を形作る大切な要素。終戦直後の混乱の中にあっての作品収集は容易なことではありませんでしたが、ここに茨城の郷土作家を中心にしたコレクションづくりの第一歩が踏み出されたのでした。

その後、茨城県立美術館は昭和31年に水戸市内の茨城県庁敷地内にある県立図書館2階

に移転。さらに、昭和41年には千波湖畔の県立県民文化センター内に移転し、茨城県立美術博物館と改称して開館しました。

長らく併設館として活動しながら地道に作品収集を行ってきた努力の結果、独立館の茨城県近代美術館(以下、近美)として開館する頃には、約1,000点ものコレクションをつくりあげることができたのでした。茨城ゆかりの作家のほか、西洋絵画や国内外の優れた作品にも目を向けた幅広いコレクションは、現在、約4,000点を数えます。近美は茨城の近現代美術の宝庫といってよいでしょう。



▲茨城県近代美術館 外観

茨城の洋画史を概観

さて、このたびの展覧会は、近美コレクションの中から選ばれた、近代から現代までの茨城ゆかりの作家たちによる洋画作品を中心に構成しています。中村彝や辻永、熊岡美彦、鈴木良三といった茨城洋画壇を代表する作家から、山本文彦、野沢二郎など現在活躍中の作家まで、茨城の洋画史を彩る画家たちの作品が目白押しです。